



SARS-CoV-2 が常在する世界で 我々はどうすればよいのか? 第27回

本原稿を記載している段階では、東京、大阪など大都市圏で急速に患者数が増加しており、それと同時に日本国内の至るところで感染者が確認されています。少なくとも国内における二回目の流行に入りつつあります。すでに第二波という言葉が使われておりますが、以前から言われているように、この感染症はすでに人類に適応していますので、人間の世界から消えて無くなるということはないと思いますし、世界を含め、どこかで人と人との接触を介して維持されていますので、人が移動すればそれとともにウイルスは移動し、今後も感染は続き、たまたま3つの密の条件がそろえば大きく患者数は拡大してクラスタ、あるいは第二波、第三波の流行となります。

有効で安全なワクチンが完成するまでは、これからもこういう状況が続くと思われま。かと言って、ずっと外出自粛を続けていくわけにはいきませんので、日常生活と感染対策のバランスをとっていかありません。これまでと同様のことをやっていけば、4月のように患者数は増加し、そうなると、もとより脆弱な地方都市の医療体制は簡単に破綻します。もしも破綻してしまえば、救急を含むすべての医療が影響を受けますし、COVID-19の患者さんも十分な治療を受けられなくなりますので、死亡率も上昇することになってしまいます。これだけは避けなければなりませんので、医療体制が崩壊しそうになったら、4月のように緊急事態宣言を出して、もう一度国民みんなで外出自粛をする以外には方法はありません。おそらく、全国的な緊急事態宣言を行うたびに、日本経済は甚大な打撃を受けると思います。もちろん、みなさんも自宅に閉じこもるのはもう懲り懲りだと思って見えるかも知れません。

であれば、経済活動と感染対策のバランスをとって、ほどほどにこの感染症と付き合っていく以外に方法はありません。これまでと同じことをやっていたのでは、必ず同じ道をたどります。かと言って、自粛ばかりでは生活が成り立ちません。ひとつだけ言えることは、外出するだけ、あるいは移動するだけでは感染は起こらないのです。最終的に人と人の接触によって感染が成り立つわけですから、ひとりひとりが適切な感染対策を行っていけば、感染は起こらないこととなります。もちろん、不要な外出は避けて頂く方が賢明ですし、ハイリスクの方はできるだけ感染を避けていただくほ

うがよいと思いますが、いつもそうは言われていません。

その場合には、可能な限り感染のリスクを下げて、自分の目的を達成するにはどうしたらよいか、ひとりひとりが考えて行動するしかありません。基本は、できるだけ人との距離を取ること、取れない場合にはマスクをきちんとすること、鼻だけ出している方がときどき見えますが、効果は半減です。人が少しでも集まる場所では部屋の換気は心がけ、多数の人が接触する場所に触れた場合には、必ず手指衛生を行い、さもなくば手は首より上に持っていかない、そして3つの密を避けることです。

一方では、自分が感染しないように対策を取るとともに、自分もウイルスをもっているかもしれないということを意識して、広げさせないという心構えも必要です。身に少しでも覚えがある、つまり県外に行った、県外の方と接触した、密の状況になったかな、こういうときに少しでも体調の異常を感じたら、人と接触しないようにして、すぐに検査を受けて診断をしてもらうべきです。感染するのは非難されるべき事ではありませんし、その際に早く診断されるということは、感染拡大を自分だけで食い止めたということで評価されるべき事です。

いろんな業種別に感染対策のガイドラインが出ていますが、ガイドラインを読んだだけで出来れば苦労はありません。5月25日の緊急事態宣言解除以降、みんなで感染対策を行いましたと言われてきましたが、これまでやってこなかったことですから、なかなか長続きはしなかったのだらうと思います。



現在は人類がこれまでに経験したことの無い状況ですので、誰にも正解はわかりません。であれば、感染が増加すれば、一旦はみんなで外出自粛を行って感染伝播を抑えて、そこから再びみんなで感染対策を行いつつ経済を回していく、また感染が増加すれば外出自粛を行う。試行錯誤を繰り返しながら、一步ずつ前に進んで、まずければすぐに下がる、これを繰り返して、現実問題に対処していく以外に方法はないと思いま。 (臨床研究部長 谷口 清州)